

2019 年北京國際園芸博覽會

第 2 章 出展業務

1. 日本国出展経緯

2019 中国北京国際園芸博覧会は、中国では 20 年ぶりに開催される A1 クラスの園芸博覧会で（前回は 1999 年雲南省昆明で開催）、中華人民共和国の建国 70 周年に当たる年であることから、中国政府としても総代表 汪洋國務院副総理、実行委員会委員長 蔡奇北京市党書記（前北京市長）という体制をとっており、国家としても大変重視しているイベントであった。

2016 年 7 月、中国の李克強首相から安倍首相あて招請状が発出され、これを受ける形で農林水産省と国土交通省で検討を開始した。前回のアンタルヤ園芸博等過去の国際園芸博覧会では農林水産省が国際館等における屋内出展を、国土交通省が日本庭園の屋外出展を行ってきたが、日本国政府出展が 2 つの場所に分散されることによるデメリットがあった。アンタルヤ園芸博終了後、この反省を踏まえ北京国際園芸博覧会は検討当初から農林水産省、国土交通省が一体となって出展をするべく調整を進め、2017 年 9 月の現地調査において博覧会事務局との調整の結果、日本国出展区画として一般の参加国の倍以上の面積である 2550m²を確保した。

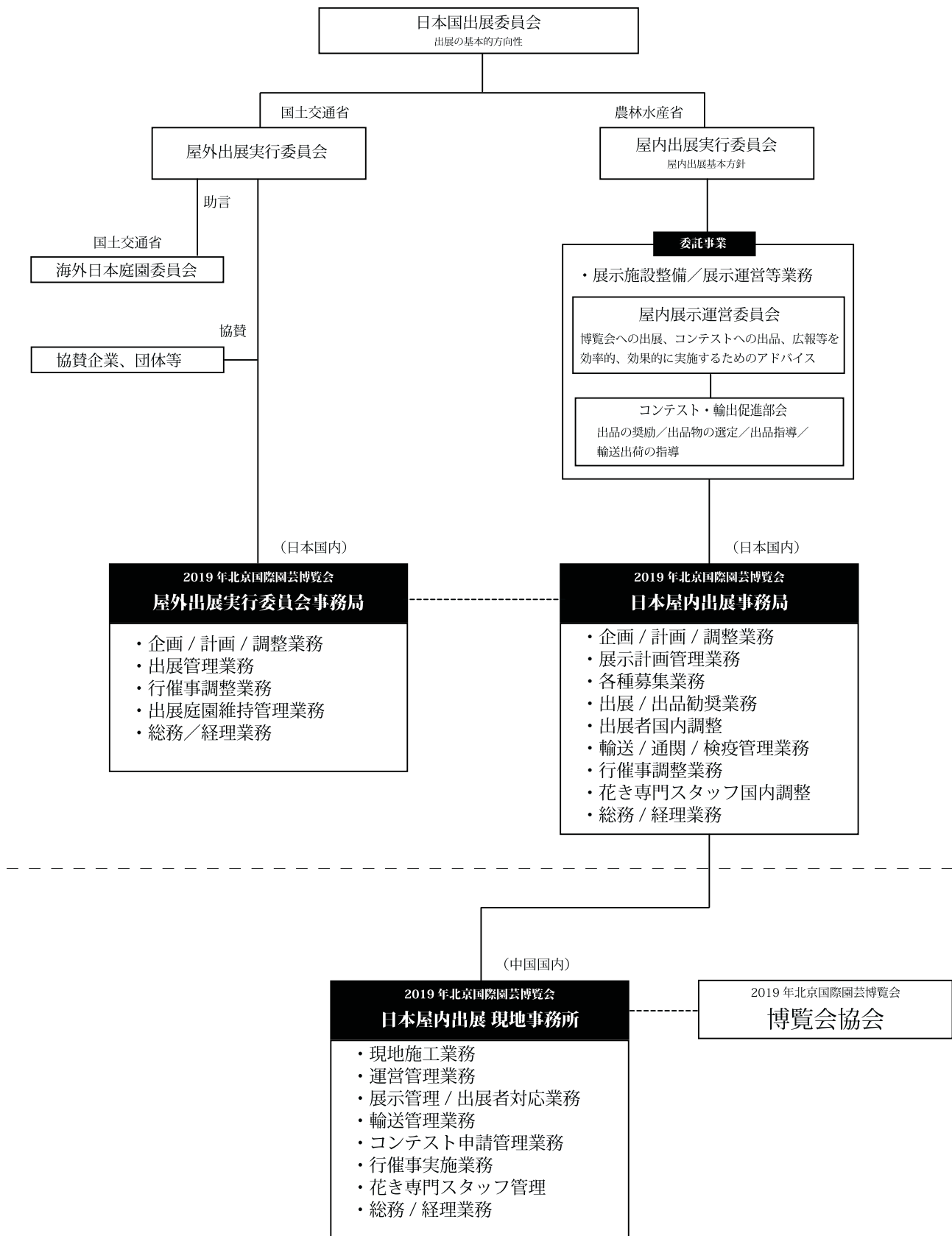
その上で、2018 年 2 月に農林水産省、国土交通省合同で日本国出展委員会（委員長：涌井史郎東京都市大学特別教授）を設置し全体のコンセプトやテーマ、ゾーニングを定め、これに基づき農林水産省の屋内出展実行委員会、また国土交通省の屋外出展委員会をこれまでの博覧会と同様に設置することとし、一体として検討を行った。

2. 事務局推進体制

過去の国際園芸博覧会の業務実績を持つスタッフを配置した事務局体制を構築した。事務局は日本国内に設置した日本屋内出展事務局（以下、国内事務局）と中国国内に設置した日本屋内出展現地事務所（以下、現地事務所）で構成され、常に連携を保ち、事業推進に努めた。

開幕前から国内外の関係者との定期的なミーティングを重ね、事業計画の策定や事業の進捗状況の確認、課題の解決方法などを共有しすすめた。事務局の推進体制は次頁の通りである。

(推進体制図)



3. 日本国出展の基本的方向性 (日本国出展委員会)

■基本的コンセプト

日本の花きと花き文化を展示する屋内展示及び日本庭園等の屋外展示が調和のとれた一体となった展示として、「庭屋一如」の考え方のもとに多様で奥行きのある日本の園芸文化とライフスタイルの今を伝える。

日本人の自然に対する畏敬と感謝の思いによって育まれてきた世界に誇る造園及び花き園芸文化は、安らぎだけではなく、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」に対しても自然環境の積極的な利用を通じて一層の貢献の可能性があることから、現在の日本の環境技術やライフスタイルとあわせ来訪者に伝える。

2020年東京オリンピック・パラリンピック、2022年北京冬季オリンピックが予定されている中で、両国の交流の一層の拡大につながるよう日本の魅力を伝える。

■出展テーマ

Japanese Green Lifestyle

自然に関する畏敬の念と、自然に対する感謝の念をあわせもった日本人の自然観をふまえつつ、伝統的な園芸技術、花文化や日本庭園技法と最先端の環境技術を融合させた、日本の成熟したライフスタイルを表現する。

■ゾーニング

出展区画は、次のゾーンで構成する。

- 1) 屋外展示として、日本の伝統的な造園技術を駆使し、水辺空間を備えた様式による庭園
- 2) 屋内展示として、日本庭園と調和した花き園芸技術を展示する和風建築物及びそれと一体となった坪庭空間

- 3) 日本文化を伝える行催事の会場となる空間
- 4) 日本国出展に賛同した企業で、園芸博覧会のテーマに関連した商業活動を行う企業のPRの場となる空間

庭屋一如の説明パネル



書：矢部澄翔

(説明文)

日本の展示では、日本庭園と日本展示館での花の展示によって、多様で奥行きのある日本の園芸文化とライフスタイルの今を伝えます。

日本庭園の伝統と日本の花文化は、日本人の自然に対する畏敬の念と感謝の思いによって育まれてきました。

この多様で奥行きのある園芸文化を、伝統的な日本庭園、それを眺めることのできる和風の日本展示館、そしてそこで展示される季節感あふれる美しい花の展示が一体となって伝統と新しい技術を融合した「庭屋一如」の形で表現します。



■第1回日本国出展委員会資料(2018年2月5日)

